



人間が生まれながらに持つ言語習得能力を
発動させるだけの英語環境に身を置かせ、
自然に英語を習得させることを狙う
おうち英語というアプローチ。

何から何まで自然習得できるのでしょうか？

今日は英文を構成する力、そして英文法について
考えてみたいと思います。

■目次

- おうち英語っ子の文法傾向
- ネイティブも文法に苦勞?イギリスの SPaG program
- 日本の学校英語は乱暴だから
- 無くて七癖【矯正】の視点で

●おうち英語っ子の文法傾向

おうち英語には本当にたくさんの壁があると感じます。

十分にインプットした後はアウトプットという最初の関門、
そしてその関門をなんとか突破したと思ったら、
今度はインプットを更に深めていくために
リーディングに繋げていく必要を感じ、
あの手この手を使ってリーディングの導入に必死になり…。
「やれやれ、なんとかリーディングが軌道に乗ったわ」
と思ったその次は、
「ライティングもやらなければ!」と。。。

そしてそのライティングの段階で、
私たち保護者は何のフォローもなく書かせた
わが子のライティングの仕上がりに
気絶しそうになること多々…。

昔の名作ドラマ<太陽にほえろ!>で
「なんじゃこりゃあ!!!」と松田優作が
突然の出血にテンパってしまったくらい(例えがバリバリ昭和)、
あまりに衝撃的な英作文を見たことで
自分も目から血が出ていないか
心配になるほどひどいデキであることも。。

怪しいスペル、どこまでも続く英文、なぞの短縮形、斬新な文法解釈!

流暢に口頭でのコミュニケーションが
取れるようになり安心していたのに、
実際の中身はこうだったのか・・・と。

ライティングで浮かび上がってくる
おうち英語っ子の英語の粗さというのは、
スペリング、フォニックスの問題などもありますが、
最も気になるところは【文法の正確性】になると思います。

学校英語で文法を軸に英語を学んだ親世代の私たちからすると、
自分たちがしゃべれないことは棚に上げて、
文法の粗さを見つけると途端に強気になるという性質もあり、
子どもたちの文法の粗さに物申さずにはいられなくなるのですよね www

もちろん放置しておいてよい問題ではありませんが、
おうち英語っ子たちの英文法が
ラフな状態の仕上がりになってしまっていることは
仕方がないこととも言えます。

英語に限らず、
コミュニケーションレベルの言語というのは結構ラフですよ。

文法バッチリなセンテンスで話さなくても、
単語に抑揚を付けることで通じたり、
その会話に至るまでの背景から
文法に多少の誤りがあっても
阿吽の呼吸みたいなもので通じてしまったり。

もう退化してしまった能力になるのかもしれませんが、
案外人間は実はテレパシーという能力があるのではないか、
と思うこともあるほどです。
「目は口ほどに物を言う」という諺もありますし。

そんなわけで、乳幼児期からコミュニケーション主体で
言語を完成させていく母国語方式では、
文法的な正しさを学習なしで身に付けるというのは、
ほぼ無理ゲーなことなのではないかと思います。

私たちの母語の日本語で考えてみても、
確かに日本語を誰に習わずに習得したものの、
文法の正しさには微妙なところがあり、
学校の授業で、
未然形だの連用形だの活用や句読点の使い方、
段落の書き方などを一通り習いますよね。

しかしそれを学問として習ったとしても、
それが定着するかというと、そうではないという事実も・・・。

むしろ「そんなこと知らなくても日本語は話せますけど?!」
という開き直りがあるため、
日本語の文法学習を真剣に取り組もうという人は
少ないのではないのでしょうか。。

英語が母語とまでも言わなくても、
準母語となりつつあるおうち英語っ子たちにも
それと同じ意識が芽生えており、
それがおうち英語っ子の英語文法学習意欲にも
影響を与えていると感じています。

●ネイティブも文法に苦労？ イギリスの SPaG program

母語である文法を学ぶ意欲に乏しいのは、
日本人に限ったことではなく、
世界的に同じなんだなあと感じるニュースに接しました。

それはイギリス政府が2013年に打ち出した

SPaG program

というイギリスの公教育での
国語力向上プログラムについてのニュースです。

この SPaG は

Spelling (綴り)

Punctuation (句読点)

and

Grammar (文法)

の頭文字を取ったもので

イギリス国民の国語力低下への懸念、
その状況を改善させるための政策
です。

具体的に国を挙げての政策として
積極的に働きかけているところを見ると
国語力の乱れにイギリス政府に
かなりの危機感があるのだと思います。。

もちろん最近のヨーロッパ圏の国々が抱える移民問題なども
この問題に影響を与えているのですが、
そもそも生粋のネイティブの英文法というのも
手放して正しいとは言えないですよ。。

ネイティブ信仰ではないですがつつい
「英語を習うならネイティブから習いたい！」
と思ってしまう根底には、発音の良さだけでなく、

「ネイティブが話す英語は正しいに違いない」
と思い込んでしまうところがあるからだと思います。

しかし、よくよく考えると
自分が話す母語である日本語の文法的正しさに
自信がある人はほぼいないように
実はネイティブの英語も教養が大きく反映されることは間違いなく、
誰でも彼でも信頼できるわけではないんですよね💧

高校で働いていた時、
前置詞の使い方などに悩んで ALT に質問しても
「どっちでもいい。僕もよくわからん・・・」
と言われたり、
ホームステイでアメリカ、オーストラリアから来た子を預かっていた時に、
ネイティブであるその子たちに英文法のことを聞いても、
「え、通じるから大丈夫だよ。気にしないで。」
と言われました。。。

このように実際のところは
ネイティブの英語は正しいどころか
英文法、スペリングの乱れは当然あり、
SPaG program 政策でイギリス政府が
文法教育に力を入れ始めたことからわかるように
文法とは自然習得で完璧なものを身に付けることは
無理なことなんです。。。

私が自分の子どもにおうち英語をバリバリやっていた時にも
おうち英語で身に付けられる文法の曖昧さというものには
目から血が出るほど気づいていたのですが、
自分がスピーキングに強くコンプレックスを持っていたこともあって
学童期はスピーキングをとにかく伸ばしたい、
文法的なものはどうせ中学高校で嫌というくらいやらされるし
それは日本の公教育を選択した上で避けて通れないことなので
だったら文法は学校にお任せでいいのではないかと
というスタンスでいました。

しかし、その私の認識も

息子のディスレクシア傾向を克服するために活用した
Jolly Phonics & Grammar を深く学んでいく上で
大きく変わっていきました。

● 日本の学校英語は乱暴だから

前述したように

イギリスでは国を挙げてのプログラムで
イギリスの小学生に英語の学びなおしの機会を与えており
ある程度文法学習を学校に任せることができるわけですが
それでは日本ではどうでしょう。

現在、日本の英語教育は、英語学習開始が
小学校スタートに前倒しされ、
小学校5・6年では英語が教科になっています。

しかしながら、従来の文法過学習のカリキュラムの反省からか、
小学校ではコミュニケーション重視のカリキュラムとなっており
文法を学ぶ機会は設けられていません。

やはり文法は中学校からなのか?!と思いますが、
中学校の教科書の内容も学習指導要領の変更に合わせて大きく変わり、
中1の最初の段階から be 動詞、一般動詞、助動詞混在の英文が並び
昔のように be 動詞から積み上げて学んでいく内容とはなっていません。

もちろん単元毎にフォーカスされる英文法はあるようですが
昔のような文法重視の授業スタイルではなくなってきているようです。
文法は塾で、ワークブックで自学することが求められるような。。

わが家の娘や息子に聞いてみても

中学校の英語はゲームやアクティビティ主体で進められる
アクティブラーニング型で授業が進められる割合が多かったようです。
あまり文法を重視しないスタイルで表面上授業が進められますが
テストはバリバリ筆記で暗記、そして文法が問われるという不思議 🤔

そんなこんなで中学校までは
文法をしっかり系統立てて学ぶという機会には恵まれないように思います。

しかし、高校に入ると途端に文法色が濃くなります。。
学習指導要領が変わるたびに
教科名が「英語表現」とか「論理表現」などに変わりますが
やっている授業内容は基本的にグラマーです。

SやVぐらいは高校入学したての1年生も知っている子が多いですが
いきなりOとかCとかMなど未知の文法用語が飛び交う授業内容になり
面食らう子が多い印象です。。

私が高校で教えていた時、
出来る限り言葉を尽くして説明しようとはしたのですが
OやCを理解する前に品詞を正しく理解してない、
というか、品詞とはなんぞや、という説明を受ける機会を
生徒たちはこれまでに持ったことがないではないか・・・
ということに気づき、愕然としました。

国語の授業で多少品詞について
フォローされているかとも思ったのですが
そもそも日本語の品詞と英語の品詞は
似ているようで異なるところがあるため
参考程度にはなっても
それでOKとはなりませんよね・・・。

英語には形容動詞とかありませんし・・・。

突然登場する品詞という概念・・・。

私も高校生の頃は品詞を全く理解しておらず
「important?importance?めっちゃめっちゃ似てるやん!紛らわしい!」
ぐらいの認識だったと思います。。。

よくそんな程度の認識で英語の先生になろうと思ったものよ・・・。

きっと私が教えていた子たちもその程度の認識で
暗闇の中を手さぐりで進んでいくような
英文法学習になっていたんだろうと推測します。
当たったらラッキーぐらいの…。

特に文法をおうち英語でフォローしなかった娘も
品詞に対しての認識が浅く、文法学習には苦勞していました。

娘は文法を知らなくても英語がそこそこ操れたので、
「文法なんて知らなくてもなんとかなるわ」という意識が根底にあり
文法をしっかりと学ぼうという意欲が薄かったということもありますが
やはり品詞についての知識がないことで
文法学習が進まなかった印象があります。

テスト前などに「Cって何？」と何回聞かれたことか…。
「補語だよ。形容詞がね、」と説明を始めても
「フォーゴって何？」みたいな感じで
右から左に説明が通り抜けて行っているのがバリバリ伝わってきて
説明するのもアホらしく感じたものです。。

しかし、片や、英語の読み書きで苦勞し、
それを幸いに Jolly Phonics & Grammar を学ぶことができた息子は
英文法に関しては違う反応を見せました。

Jolly Grammar はイギリスの SPaG program のために開発された
ネイティブ向けのグラマーのカリキュラムになりますが
その内容は日本人の私たちが思う英文法の内容と大きく異なる
内容構成となっています。

日本の学校英語では、
動詞表現に重きを置いてアプローチが進む印象がありますが
Jolly Grammar ではまず品詞学習からスタートします。
丁寧に丁寧に品詞への理解を促していきます。
そのアプローチは本当に丁寧過ぎるくらい丁寧に
英文法を正しく理解する素地として品詞の理解が大切なのだと
思わざるを得ません。

ピンチはチャンス、
その Jolly Grammar を運よく学ぶことができた息子
やはり高校での文法学習の理解度が娘とは異なります。

品詞を理解できているので文法の説明が通るのですよね。

この娘と息子の反応の違いはとても興味深いものでした。
娘にちゃんと品詞学習をする機会を作ってやれなかったことを
申し訳なく思いますが、今更どうにもならないので
これからおうち英語を極めていかれる方に
せめてこの経験を反面教師的に役立てていただくしかないかと💧

Jolly Grammar に接して品詞の重要性を再認識してから
学校で英語を教える際に、
品詞について説明する時間を作ってみたのですが
そんなに簡単に理解してもらえるものでもないのですよね💧

品詞と言う概念を理解するためには
丁寧なアプローチ、そして時間を掛けることが絶対的に必要です。

自分が教壇に立っているときは
学校のカリキュラムに多少疑問を覚えながらも
「こういうものだ、仕方がない」と
受け入れてしまっていたところがあるのですが
イギリスでネイティブが学ぶ英文法のアプローチを知ること
で学校英語の乱暴さを実感した次第です。。

しかししかし、
高校で学ぶ英文法のすべてがナンセンスで害悪がある
とも思っていません。

すべてを全否定するわけではなく
英文構成などを確認していく上では有益な知識も得られますし
母語である日本語で英文法を再度確認するのは
英語をブラッシュアップする上で無駄ではないと思います。

ただ、それらの知識を理解するための素地を作ることに
全く時間が掛けられていないという意味で日本の学校英語乱暴であり、
そこはおうち英語、家庭で補っていく必要があると
今は強く思っております。

そんなわけで
今の私の課題は如何に Jolly Grammar の良さを
多くの方に知っていただくか、ということに尽きます。

品詞だけでなく、
日本の学校英語では同じく時間を掛けられない
Punctuation (句読点) の正しい使い方も
身に付けることができますし!

皆さん、Jolly Grammar いいですよ。
(さらっと宣伝 www)

● 無くて七癖【矯正】の視点で

では、品詞さえ押さえれば
それで安泰なのかと言うと違います。

ただスタート地点に立っただけ、と言えます。

おうち英語っ子のライティング、英文法には
別の問題点があります。

それは【自分の英語に対する強い自信】です。

自信を持ってもらうのはとてもいいことですが
「間違っているわけない」という思い込みになっていることもあり
その辺りが非常にやっかいな問題となってきます。

わが家の娘のケースにしても、
私がこれまで Englishbuds の Jolly Phonics & Grammar 講座の宿題を
添削してきた経験からも、その傾向は強いと感じています。

聞く耳持たぬ状態になっている場合もあり、
その辺りの意識変革?的なところも結構大変です。

この辺りは根気よく何度も何度も間違いを指摘して、
思い込みを矯正していくしかないですね。

先日、Instagram で
「日本語の作文でも似たようなところがありますよね」
というコメントをいただきましたが、
正にソレ!ですね。

日本語でも実際に作文を書くことで
日本語の粗さを確認、修正していきながら
日本語の質を高めていくという過程を取りますよね。

おうち英語っ子の場合、
もちろんワークブックなどを活用し、
英文法を学ぶというアプローチ方法を持つことも
必要だとは思いますが
日本語の学習過程と同じく、
文法を学ぶという意欲が弱いため、
それだけで文法が修正されるという期待は
あまり持たない方がいいのではないかと。

おうち英語っ子の文法の粗さ・思い込みはすでにクセ、
悪癖になってしまっていると観念して
根気よく指摘しながら【矯正する】という視点で
アプローチしていくのがベストなのではないか、
と私は現在考えております。

一朝一夕でどうにかなることではないものですが
元はと言えば
言語というものの自体、終わらない学習なのかと。

そう心得て、少しでもより良いものを目指して
コツコツと取り組んでいくしかないのかも・・・
と思っております。

しかし、英文法を勉強という方法で
一から覚えていくのではなく、
ある程度の英文構築能力がすでに備わっており、
後は修正・矯正というところから
英文法学習をスタートできるおうち英語っ子というのは
それだけでうらやましい能力をすでに身に付けているなと思います。

センスやその処理スピードなど
学校英語で英語学習をスタートした私たちとは雲泥の違い。。

一歩、二歩どころか
千里、万里向こうを歩んでくれていると感じます。

羨ましい、羨ましい！

英文法の粗さが気になると
一気にお勉強系、自分たちが学んできた文法学習法を
導入したくなくなってしまう気持ちもわからなくもないですが
「角を矯めて牛を殺す」のように
日本式英文法学習でその良さを殺してしまうことがないように
気を付けることも必要だなあと思っています。

おうち英語っ子とその能力を磨き、
少しでも品格高い英語に近づいてもらえるように
これからも Jolly Grammar、英文添削を通じて
微力ながら働きかけていきたいと思う今日この頃です。